



博物館の窓

学芸員
持田 誠

第79回

コロナな時代3年目

新型コロナウイルス感染症が日本国内で流行して、3年目に突入しました。浦幌町立博物館では、この間の急速な社会変化を「コロナな時代」ととらえ、時代を表す資料収集に取り組んでいます。

最近、「コロナな時代」とよく似た時代として、約百年前の大正時代の「スペイン風邪の時代」を振り返る試みが各地で見られます。しかし、十勝地方の当時の様子を知る資料は、残念ながらほとんど残されていません。

その反省もあつて、博物館ではいまの「コロナな時代」を確実に記録に残そうと、今日も資料収集に努めているのです。



昭和初期、国産化されてまだ間もないころのマスク。表面は黒く、口当て部分には、空気孔の空いたセルロイド板がはめられている。
(浦幌町立博物館所蔵)